



# 平成21年度 「新たな公」によるコミュニティ創生支援モデル事業 提案書

※2～3枚以内にまとめて下さい。

応募団体名	ほかいげ（特定非営利活動法人設立申請中）																																																																																				
モデル事業名	若者づくり・町づくり事業																																																																																				
推薦市町村名	平取町(北海道沙流郡)																																																																																				
対象地域	ほっかいどうさるぐんびらとりちょう 北海道沙流郡平取町																																																																																				
対象地域の概要	<p>・面積:743.16平方キロメートル</p> <p>・集落数:17集落</p> <p>・集落毎の人口、世帯数(右表)</p> <p>・少子率 14.36%</p> <p>・高齢化率 25.77%</p> <p>主たる実施対象地域となる北海道沙流郡平取町は、農業を中心とする町である。</p> <p>人口は昭和35年の13,300人をピークに現在は6,000人を切るまでに減少している。本町地区と呼ばれる行政・経済の中心集落のほか、振内、紫雲古津、小平、二風谷、貫気別、豊糠などの人口数十人から数百人の集落が点在し、それらの集落ではさらに過疎化は進行し、地域コミュニティの存続すら危ぶまれている。</p> <p>そんな状況下で、町の施策として定住地地の分譲、新規就農者支援、山村留学などの移住・定住促進事業により一定の効果は上げているものの、過疎化の速度に追いつけていない。</p> <table border="1" style="width: 100%; text-align: center;"> <caption>主要地区人口推移</caption> <thead> <tr> <th></th> <th>H19年</th> <th>H20年</th> <th>H21年</th> <th>増減</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>本町地区</td> <td>3,831人</td> <td>3,765人</td> <td>3,686人</td> <td>-3.78%</td> </tr> <tr> <td>振内地区</td> <td>1,137人</td> <td>1,119人</td> <td>1,059人</td> <td>-6.28%</td> </tr> <tr> <td>貫気別地区</td> <td>924人</td> <td>891人</td> <td>848人</td> <td>-8.25%</td> </tr> <tr> <td>町全体</td> <td>6,067人</td> <td>5,942</td> <td>5,819人</td> <td>-4.09%</td> </tr> </tbody> </table> <p>本町地区:川向、紫雲古津、去場、荷菜、本町、小平、二風谷 振内地区:長知内、幌毛志、振内 貫気別地区:荷負、貫気別、旭、芽生</p> <table border="1" style="width: 100%; text-align: center;"> <caption>H21年7月末世帯数・人口</caption> <thead> <tr> <th>集落</th> <th>世帯数</th> <th>人口</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>川向</td><td>73</td><td>150</td></tr> <tr><td>紫雲古津</td><td>144</td><td>384</td></tr> <tr><td>去場</td><td>80</td><td>190</td></tr> <tr><td>荷菜</td><td>342</td><td>860</td></tr> <tr><td>本町</td><td>742</td><td>1533</td></tr> <tr><td>小平</td><td>58</td><td>146</td></tr> <tr><td>二風谷</td><td>188</td><td>426</td></tr> <tr><td>荷負</td><td>98</td><td>187</td></tr> <tr><td>貫気別</td><td>222</td><td>478</td></tr> <tr><td>旭</td><td>42</td><td>108</td></tr> <tr><td>芽生</td><td>49</td><td>75</td></tr> <tr><td>長知内</td><td>45</td><td>106</td></tr> <tr><td>幌毛志</td><td>23</td><td>59</td></tr> <tr><td>振内</td><td>467</td><td>894</td></tr> <tr><td>岩知志</td><td>44</td><td>120</td></tr> <tr><td>豊糠</td><td>17</td><td>26</td></tr> <tr><td>仁世宇</td><td>2</td><td>6</td></tr> <tr><td>合計</td><td>2616</td><td>5748</td></tr> </tbody> </table> <div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: center;"> <div style="text-align: center;">  <p>【平取町振内地区(主活動地域1)】</p> <p>【平取町豊糠地区(主活動地域2)】</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>【位置図】</p> </div> </div>				H19年	H20年	H21年	増減	本町地区	3,831人	3,765人	3,686人	-3.78%	振内地区	1,137人	1,119人	1,059人	-6.28%	貫気別地区	924人	891人	848人	-8.25%	町全体	6,067人	5,942	5,819人	-4.09%	集落	世帯数	人口	川向	73	150	紫雲古津	144	384	去場	80	190	荷菜	342	860	本町	742	1533	小平	58	146	二風谷	188	426	荷負	98	187	貫気別	222	478	旭	42	108	芽生	49	75	長知内	45	106	幌毛志	23	59	振内	467	894	岩知志	44	120	豊糠	17	26	仁世宇	2	6	合計	2616	5748
	H19年	H20年	H21年	増減																																																																																	
本町地区	3,831人	3,765人	3,686人	-3.78%																																																																																	
振内地区	1,137人	1,119人	1,059人	-6.28%																																																																																	
貫気別地区	924人	891人	848人	-8.25%																																																																																	
町全体	6,067人	5,942	5,819人	-4.09%																																																																																	
集落	世帯数	人口																																																																																			
川向	73	150																																																																																			
紫雲古津	144	384																																																																																			
去場	80	190																																																																																			
荷菜	342	860																																																																																			
本町	742	1533																																																																																			
小平	58	146																																																																																			
二風谷	188	426																																																																																			
荷負	98	187																																																																																			
貫気別	222	478																																																																																			
旭	42	108																																																																																			
芽生	49	75																																																																																			
長知内	45	106																																																																																			
幌毛志	23	59																																																																																			
振内	467	894																																																																																			
岩知志	44	120																																																																																			
豊糠	17	26																																																																																			
仁世宇	2	6																																																																																			
合計	2616	5748																																																																																			
提案内容の概要	<p>農山漁村に対する感心が高まりつつある都市部の若者と過疎集落の住民による新たなコミュニティを創出し、人口流出、高齢化により自らの力だけでは立ち上がることが困難となっている集落の再活性化を図る事業を実施する。</p> <p>単発的なイベントの連続ではなく、<u>継続可能な『田舎のこし』『田舎おこし』の仕組み</u>を創りあげる。</p>																																																																																				
提案する活動の内容 (1) 地域の課題	<p>当該地域においても、他の地域と同様に社会サービスの維持、水源地・森林の管理、自然・伝統文化の継承などについては非常に大きな課題である。しかしながら、それらの課題に直接的に取り組むことのできない要因(真の課題)も存在している。</p> <p>1、地域住民の意識に関する課題</p>																																																																																				

<p>提案する活動の内容 (1) 地域の課題</p>	<p>当該地域においても、他の地域と同様に社会サービスの維持、水源地・森林の管理、自然・伝統文化の継承などについては非常に大きな課題である。しかしながら、それらの課題に直接的に取り組むことのできない要因(真の課題)も存在している。</p> <p>1、地域住民の意識に関する課題</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・過疎化が進行していることに対する危機感が高くない。過疎の町だから仕方が無いという諦めが蔓延している。また新しい問題解決の方法を簡単に受け入れることができない。</li> </ul> <p>2、地域環境(特性)に関する課題</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・生活することに精一杯で地域活動に取り組む余裕が無い住民が大半。空白の世代(その世代が地域にいない)がある。高齢者が健在であり、次の世代に町づくりを引き継いでいない。</li> </ul> <p>3、地域外部の視点・連携に関する課題</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・地域外との連携から地域の問題を解決した経験を持たない。地域外からの視点で地域の資源・価値を再認識したことがない。</li> </ul> <p>そして最大の課題は、既に地域の力だけでは再活性化が図れない状況になりつつあるということ。</p>
<p>(2) 目標の設定</p>	<p>『新しいことに対して最初は遠慮きに眺め、成功例を見てから参加する』という特性が、地域住民(なかでも現状の地域活動の中心となっている50代以上の世代)に多く見られるため、直接的に本事業をその世代に仕掛けることは効率的とは考えられない。そのため、まず次の世代(20代から30代)を巻き込んだ成功を結果として見てもらうという目標設定とする。</p> <p>平成21年度の目標</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・地域スタッフ(20代から30代)・・・20人確保・育成</li> <li>・地域外からの参加者(10代から30代)・・・100人確保</li> <li>・都市部の子どもたちを対象とした体験活動の企画・実施・・・1回</li> <li>・継続実施できる仕組みを作り、よそ者、若者による課題解決集団の存在に対する地域の認識</li> </ul> <p>長期的な目標</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・地域(町および自治会等)の活動としての継続実施の制度化、地域のお年寄りの生き甲斐事業への発展。多地域連携による全国事業への展開</li> </ul>
<p>(3) 活動内容の案</p>	<p>活動① : 新たなコミュニティ創造事業1(よそ者・若者による連続する町づくり実践塾)</p> <p>内容 : 地域で実践的町づくりの講義、ワークショップ、実地課題解決を実施する。(テーマにより日帰りまたは数泊) ※平成21年度に想定しているテーマは以下の5テーマ。</p> <p>第1回目:『中から見えない地域の課題』(よそ者の視点による地域の課題提起)</p> <p>第2回目:『都会のねずみ田舎のねずみ』(都市部と地方の生活、環境、意識の相違)</p> <p>第3回目:『行っちゃう田舎、住んじゃう田舎』(移住する側の視点による体験→移住の検討)</p> <p>第4回目:『地域の当たり前vs眠れるお宝』(潜在的な地域資源の発掘と事業化)</p> <p>第5回目:『転がり続ける事業の仕組みづくり』(次年度以降の事業継続と収益検討)</p> <p>対象 : 地域の若者(20代から30代)、都市部の若者(札幌市などの10代から30代を想定)</p> <p>目的 : よそ者の自由な発想に対し、地域の若者が地域の現状、阻害要因などを説明することで、都市部の若者の地域の理解と、地域の若者の地域の再認識と地域外から見た地域の認識につながる。そのことにより、これまで地域になかった視点での問題解決につながる。</p> <p>初年度のテーマの中から実際に地域で課題解決し、成果を地域に示すことにより、次年度以降は地域全体が少しずつ巻き込まれ、若者だけの力では解決し得ない課題へ取り組むことが可能となる。</p> <p>各テーマの告知、成果報告等は活動②で制作するサイトにおいて行い、事業に対する関心を高める。</p> <p>活動② : 新たなコミュニティ創造事業2(サイト・コミュニティ)</p> <p>内容 : 都市部と地域とが地域の町おこしを通じて情報交換、問題解決ができる交流サイトを開設する。サイトには以下のコンテンツを含む。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 地域のニュース(お知らせ、求人・求職情報、空き家バンク、イベント告知、ブログなど)</li> <li>2. 地域の課題(地域の課題を公開し、閲覧者より解決の提案を募集する)</li> <li>3. 地域のアイデア(地域の環境や資源を使ったこんなこと出来ないか?これは使えないか?という地域からのアイデアに対し閲覧者に意見を求める)</li> <li>4. 都市からの質問・提案(都市から田舎でこんな事できないか?こんな物(人)はないか?という提案や質問に対し、地域から答える)</li> <li>5. 事業企画(上記の課題、提案から実行可能な案件について、サイト上で企画公表し、閲覧者に資金・物資の調達や事業への協力・支援・参加を求める。実施経過・報告についてもサイト上で行う)</li> </ol> <p>対象 : 地域および都市部の住民、官公庁、企業、団体等</p>

	<p>目的：地域の活動を躍動感をもって都市に発信し、地域に感心を持つファンをつくる。</p>			
	<p>活動③：新たなコミュニティ創造事業3(田舎塾)                  内容：伝統生活文化塾と自然体験塾の二本の柱で、都市部の住民に地域を体験し、地域を知るプログラムを企画実施する。(プログラムにより日帰りまたは数泊)                  企画・実施には活動①で育成するスタッフが当たる。                  対象：都市部の子供とその親、地域のお年寄り、地域の若者(20代から30代)                  目的：継続事業できる収益事業化するための仕組みをつくる。                  活動①に参加した若者達をスタッフとして起用することでスタッフ育成を図る。                  地域のお年寄りのやり甲斐、生き甲斐をつくる。</p>			
<p>(4) 多様な主体との連携・協働</p>	<p>活動①の『連続する町づくり実践塾』は大学、短大などの授業の一部(単位)とすることについて、既に札幌市内のいくつかの大学と検討しており、次年度以降、複数の大学等との連携を図る。                  農水省の事業である『田舎で働き隊』の発展事業として北海道内のNPO、NGO、企業等が連携する『北海道ふるさとづくりセンター事業』が開始されており、都市部から若者の送り出しに関して連携する(平成21年度に1回、連携事業を実施済み)。</p>			
<p>(5) 先進性・チャレンジ性、モデル性についてのアピール点</p>	<p>地域おこしの活動はその地域で収束するものが大半で、相乗的な効果を生むものは多くはなかったが、本事業ではいくつもの田舎が将来的に連携していくことで『若者たちが当たり前前に田舎を目指す』そんな社会的気運を創り出していくことを想定している。                  そのため、一地域での単発的な活動にとどまらず、当事業を他の地域にも導入・連携できるものとする『仕組みづくり』に重点を置いた事業とし、事業の企画・実施の過程、課題の解決、成果などについては、常に他の地域からも情報収集できるように、活動②で制作するサイト上で情報公開していく。</p>			
<p>(6) 重点事項への適合性</p>	<p>本事業では21年度の重点分野に対して、それぞれ以下の様に対応している。                  1. 社会サービスの維持・強化に関する活動に対して                  活動①『連続する町づくり実践塾』の第1回目、5回目のテーマが該当。                  2. 集落外部との連携等の工夫による水源地、森林等の適切な管理に関する活動に対して                  活動①『連続する町づくり実践塾』の第2回目、3回目、4回目のテーマ、活動②『サイト・コミュニティ』、活動③『田舎塾』の自然体験塾が該当。                  3. 地域の自然・伝統文化資源を活用した過疎集落等における活動に対して                  活動②『サイト・コミュニティ』、活動③『田舎塾』の伝統生活文化塾および自然体験塾が該当。</p>			
<p>(7) コミュニティ創生の実効性</p>		<p>①町づくり実践塾</p>	<p>②サイト・コミュニティ</p>	<p>③田舎塾</p>
<p>社会サービスの維持・強化</p>		<p>活動実施の為の下地(人的環境)づくり スタッフ育成</p>	<p>—</p>	<p>—</p>
<p>地域住民の合意形成</p>		<p>地域の若者の町おこし意識の醸成</p>	<p>—</p>	<p>地域のお年寄りへのやり甲斐・生き甲斐の提供</p>
<p>人的ネットワークの維持・発展</p>		<p>都市部と地域の若者の地域間交流</p>	<p>都市部の個人、企業、団体との交流、ファンづくり</p>	<p>参加者との交流、ファンづくり</p>
<p>(8) 活動の持続可能性</p>	<p>活動①の連続する町づくり実践塾では、以下のテーマおよび活動②のサイトからテーマを導き出し平成22年度以降にも継続していく。                  ・田舎の仕事創出 ・社会サービス ・受け継がれる森と水 ・受け継がれる伝統文化 ・受け継がれる伝統生活文化 ・移住 ・小規模校地域のスポーツ ・合宿誘致 ・プロスポーツ選手のセカンドキャリア受入など。                  活動②のサイトについて、他の地域でも同様のサイトをつくり相互に連携する。</p>			
<p>(9) 概算見積額</p>	<p>(金額のみ記入。内訳は様式3に記載)                  1,992 (千円)</p>			

平成 21 年度 「新たな公」によるコミュニティ創生支援モデル事業 実施フロー

モデル事業名 : 若者づくり・町づくり事業 実施フロー

< 20 年度の実施内容 >

該当無し。

< 21 年度の実施内容 >

●連続する町づくり実践塾

【時期】 11 月～3 月

【内容】

地域で実践的町づくりの講義、ワークショップ、実地課題解決を実施する。

【目的】

よそ者の自由な発想に対し、地域の若者が地域の現状、阻害要因などを説明することで、都市部の若者の地域の理解と、地域の若者の地域の再認識と地域外から見た地域の認識につながる。そのことにより、これまで地域になかった視点での問題解決につながる。

●サイト・コミュニティ

【時期】 11 月～3 月

【内容】

都市部と地域とが地域の町おこしを通じて情報交換、問題解決ができる交流サイトを開設、管理・運営する。

【目的】

地域の活動を躍動感をもって都市に発信し、地域に感心を持つファンをつくる。

●田舎塾

【時期】 11 月～3 月

【内容】

伝統生活文化塾と自然体験塾の二本の柱で、都市部の住民に地域を体験し、地域を知るプログラムを企画実施する。

【目的】

継続事業できる収益事業化するための仕組みをつくる。  
左記、町づくり実践塾に参加した若者達をスタッフとして起用することでスタッフ育成を図る。  
地域のお年寄りのやり甲斐、生き甲斐をつくる。

●成果のとりまとめ、担当地方整備局等へのモデル事業結果の報告（3 月）

< 22 年度～23 年度の事業計画 >

●町づくり実践塾の継続実施

・田舎の仕事創出 ・社会サービス ・受け継がれる森と水 ・受け継がれる伝統文化 ・受け継がれる伝統生活文化 ・移住 ・小規模校地域のスポーツ ・合宿誘致 ・プロスポーツ選手のセカンドキャリア受入などのテーマおよび、サイト・コミュニティから導き出されたテーマにて実施する。

●サイト・コミュニティの連携

他の地域の同様なサイトの設置・運営を支援し、それらを相互に連携させることでさらなる発展を図る。

●田舎塾の拡充

回数、プログラム数を増加させ、継続実施する。また、都市部の旅行会社との連携を図り収益事業化する。

## 活動様式3

### I. 活動状況

本モデル事業において以下の活動を実施した。

#### 1. 新たなコミュニティ創造事業1

よそ者・若者による連続する町づくり実践塾の企画・実施

#### 2. 新たなコミュニティ創造事業2

コミュニティ・サイト制作

#### 3. 新たなコミュニティ創造事業3

田舎塾の企画・実施

### 1. 新たなコミュニティ創造事業1の実施(よそ者・若者による連続する町づくり実践塾)

それぞれのテーマを設定した町づくり実践塾を5回実施した。

#### 1-1、実践塾1『よそ者の視点による地域の課題提起』

実施日：12月21日から22日

参加者：講演会約80人（地域約50人、地域外30人）、交流会60人（地域約35人、地域外約25人）、ワークショップ28人（地域8人、地域外20人）

内容：『地域づくりとは何か』をテーマとして民俗学者の結城登美雄先生の講演会を実施した。

講演会終了後は、結城先生と地域住民と地域外の人による意見交換会を実施した。

意見交換会には結城先生、北海道大学公共政策大学院の石井教授と学生、北海道工業大学久保研究室の学生、北海道総合政策部地域づくり支援局、日高支庁地域振興部地域政策課、平取町町づくり振興課、かえーるCLUB（平取町子ども自然体験団体）、平取町議会議員、元振内小学校教頭（平取町における山村留学の発案者）、地域住民らが参加し、『北海道公共政策大学院と平取町の連携』『かえーるCLUBとNPOほかげの連携による平取町での子ども自然体験活動』『豊糠地区での閉校校舎の活用』『アイヌ文化の伝承』『地元資源を活用した木工品の制作販売』など、非常に活発な議論がなされた。

なかでも、当町より参加した『岩知志加工クラブ』（地域で味噌・豆腐、トマトジャムづくりを手がけている）の地産物試食より、結城先生が各地で実績をあげている『食の文化祭』の話題となり、次年度以降、当町においてもアイヌ民族文化の伝承事業との関連の中で実施を検討し、今後も結城先生のご指導、ご支援をいただけることになった。

## 活動様式 3



民俗学者結城登美雄先生の講演会。

「地域とは何か?」「地域づくりとは何か?」を中心にご講義いただいた。

良い地域には7つの条件があると結城先生はおっしゃっていた。

- 1、良い仕事のあること
- 2、良い居住環境のあること
- 3、良い文化のあること
- 4、良い学びのあること
- 5、良い仲間のあること
- 6、良い自然風土のあること
- 7、良い行政のあること

また、学びについては「知るために学ばな。使うために学べ」とおっしゃっていたことが非常に印象に残っている。

翌日は『次年度平取町に3組の移住者を誘致するための具体案』をテーマとして、様々な立場の参加者たちが5つのグループに分かれワークショップを実施し、次のような意見が出てきた。

### グループ1

地域からの参加者による地域の紹介を受け、平取町の1番を活かした交流事業の展開についての議論となった。



講演会終了後の意見交換会には味噌・豆腐、トマトジャムづくりで地域活性化を進める主婦らのメンバーも参加。商品の試食なども行った。



結城先生と北海道大学公共政策大学院の石井吉春教授。

石井教授は北海道の『過疎地域を考える懇話会』の座長でもあり、結城先生、石井教授、平取町の三者による新たな地域活性の取組を予感させる場面も見られた。

## 活動様式 3

平取町は単一農協としては日本一のトマトの生産量を誇ることから、都市部の人達がトマトの生産を体験することによって平取町に対する親しみやコネクションを持ち、地域住民にとっては活気、新しい発見、誇りなどをもたらすというもの。  
単純なトマトの交流ではなく、文化交流への発展について検討された。

### グループ 2

活用しうる環境を最大限に活かして体験から移住に結びつけるための企画についての議論となった。

仕事、体験、PR、住宅、教育の分野に分類して検討された。

仕事では飲食店、加工会社、ハンティング（鹿などの狩猟）、観光農園、案内人。

体験では、親子ツアー、学生交流、登山ガイド、演劇学校。

PRでは、マスコミ、口コミ、文化、若者。

住宅では、閉校舎の住居化、廃屋活用。

教育では、有名人による部活動指導、Uターンしやすい育成環境などについての具体的な企画を検討された。

### グループ 3

グループ 3 では 1 年間で 3 組の移住者誘致のテーマを、5 年間で 10 組の移住者誘致という中期的なテーマに置き換え、各年度毎にどのような活動をしていくべきなのかについて議論された。

1 年目は、住宅環境の整備や人材育成など受け入れ環境の整備。

2 年目は、育成した人材によるプログラムの実施や、地域交通の整備、ホストファミリーの実施。

3 年目、4 年目は、地域の仕事の創出。

5 年目は、アイヌ文化との連携や全町的な活動として検討され、最終的に最も必要なものは大きな仕事（企業）ではなく、小さな仕事の集積（起業、SOHO 的事業）であると結論づけられた。

### グループ 4

グループ 4 では、地域の魅力と欠点（不足点、不便な点）を洗い出した上で、3 つの具体的な活動について議論された。

#### 1、体験型農業、交流観光

長期的な就農支援や退職者を視野に入れた体験から就農への具体策。

#### 2、広報、情報発信

まだ平取町を知らない、興味がない人達を引き込むために、インターネットを活用した地域情報の発信や都市部へのアンテナショップの設置。

#### 3、魅力づくり

伝統、教育などの分野において潜在的ニーズをつかむ。（伝統工芸品、伝統生活文化、古民家再生、子どもの教育）

### グループ 5

グループ 5 では人、仕事、自然、求める人、情報発信に分類し、検討を進めようとしたが結論を出すには至らなかった。

それには以下の理由が考えられる。

グループ 5 には地域の有力者が加わっており、都市部の意見、若者の意見を聞こうとしていなかった。何をしようとするにも、それができない理由、ダメな理由ばかりを並べ立

## 活動様式 3

その方が個人的にどうこうと言うわけではないが、この様なことが地域では時々見受けられる。

これまで地域を担ってきた方達がこれまでの考え方のみによって新しい考え方や手法を受け入れることを妨げているという状況である。

そのような人達をどの様に巻き込んで、正しいか正しくないかの判断によって地域を活性化させていかなければならないという意味において、このグループの参加者には非常に良い勉強になったと思われる。



翌日に実施したワークショップでは都市部の若者、地域住民らが一緒になって田舎活性化の活発な意見が出された。

実践塾 1 は以下の理由により『地域への啓蒙』に重点を置いて実施した。

平取町振内地区はかつてはクロム鉱山や林業により、国鉄、営林署、製材工場などで栄えた町であるが、昭和三十年代後半からそれらの産業は急速に撤退し、ピーク時の人口の三分の一程度まで減少した。また、数年前より中心地域の転出が進み、過疎化は一気に速度を増した。

このことにより、地域住民の多くは自分たちの地域（足下）に誇りも可能性も見出すことができなくなっていた。

また急速に繁栄し、急速に衰退した地域であることから、自分たちの手で少しずつでも地域を活性化（自治）しようと考えることができにくくなってしまっている。

言い方を変えると、地域のことを自分たちで解決するのではなく、役場におねだりをして解決してもらおうという役場依存体質になり、あきらめが蔓延しはじめているような状況にあることから『自分たちの力で地域を活性化することができる』『自分たち自身が考え、行動しなければならない』ということを経験ではなく、実際のカタチとして見てもらうことが地域活性化の最初に必要であり、また最も重要であると考えたからである。

その為、講演会ではこれまで住民団体など役場以外では招聘することができるとは考えられなかったレベルの教授をお呼びし、全町に告知した。

また、意見公開会、ワークショップでは、地域で活動されている（あるいはその予備軍）と考えられる方々に参加していただき、地域を巻き込む起爆剤づくりを心がけた。

---

### 1-2、実践塾 2 『都市部と地方の生活、環境、意識の相違』

実施日：1月14日から15日

## 活動様式 3

参加者：11人（地域11人）

内容：実践塾1の意見交換会、ワークショップなどに都市部の若者と地域住民との交流の中で、地域住民の中に『地域の可能性』『都市部との連携の効果』『外から見た地域と住民意識の相違』が見え始めてきた。

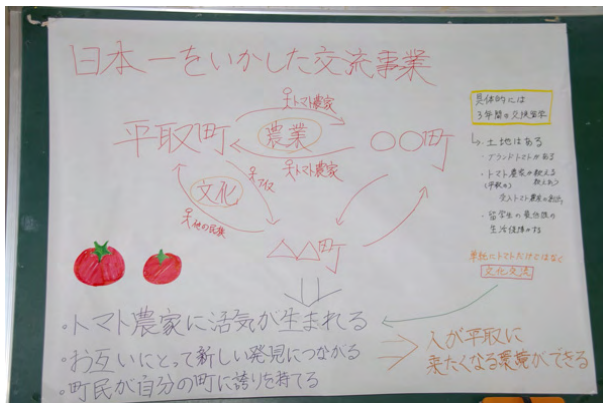
それらを受け、田舎づくり実践塾1のワークショップで各グループから出された『次年度平取町に3組の移住者を誘致するための具体案』地域だけではなく都市部の視点からより具体的な計画とするための討議を実施した。

実践塾2では実践塾1のワークショップの5つのグループでの検討をもとにして実施したが、各グループで検討された内容には以下の共通する課題があることが判明した。

- 1、地域の意識が重要であるということ。
- 2、地域の資源を発見（再認識）しなければならないということ。
- 3、情報発信が重要であるということ。

これらの共通した課題を認識した上で、次年度以降に向けて以下の事業を実施するため具体的な検討にはいることとした。

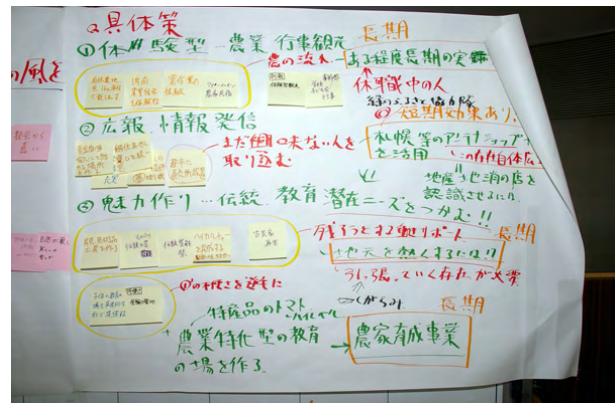
- 1、体験型農場のモデルプランをつくり、日本一の生産量を誇るトマト農業への新規就農者を誘致する。
- 2、地域の資源を発見（再認識）するために地域住民を対象にした地元学の講座を開く。



平取町の日本一（単一農協での夏秋トマト生産高）を活かし、就農支援により農業者としての移住者誘致を検討するテーマ。

単にトマト生産者として転入するのみではなく、文化交流も重要であると議論された。

また、スタッフ予備軍を巻き込み、田舎づくり実践塾3、4、5の具体的な進め方についても議論した。



体験型農場を検討するテーマ。

体験型農場に限らず、地域に人を呼びこむためにはまず、地域の魅力づくり（発見）が必要であることに着目し、地域の魅力づくり（発見）の具体的な方法について討議された。

また、地域の情報をどのようにして都市部に対して発信していくかについても議論された。

## 活動様式 3

実践塾 2 では以下の理由により『外の視点による地域の魅力』に重点を置いた。

地域ではこれまでの地域課題の解決に際して、**地域外の視点**を持つことはほとんどなかった。

かつての木材産業、クロム鉱山産業が繁栄していたことにより、地域外からの転入者はそれらの産業での就労を明確な目的としていたため、敢えて地域の魅力を発見しようとする必要性はなく、観光業の必要性も考えられてはいなかったからである。

そのためそれらの産業が衰退してきたときにも地域に人を呼び込もうという発想ではなく、都市部に転出していくという考え方しかなかった。

これは田舎には都市の情報は溢れ、都市には田舎の情報は発信されていないという社会的な問題によるところでもある。

これらのことから地域ではいつしか、地域の魅力を見失い、都市部の人たちが潜在的に持つ地域の可能性に気づかなくなっていた。

その為、実践塾 2 では、参加者に『気づき』を与え、地域の可能性を感じ取ってもらうことを心がけた。

---

### 1-3、実践塾 3 『移住する側の視点による体験→移住の検討』

実施日：2月11日から14日

参加者：約15人（地域約5人、地域外約10人）この他交流会に約300人の参加。

内容：本モデル事業を通じて、都市部の若者たちと数多くのコンタクトを取ってきていた中で、北海道内外の学生が連携しているサークルとYOSAKOIソーランに参加する全国の学生との地域交流会を開催した。当初の想定を超える規模となったが、実践塾 3 のテーマである『移住する側の視点による体験』を非常に多くの都市部の若者に体験してもらう結果となった。また、学生サークルの中心スタッフの方々には準備段階から地域に入ってもらい、様々な団体、機関などと交渉をしてもらう中で『田舎の事情』について十分に理解してもらうことができた。

1月14日、1月17日、2月10日

札幌にて、学生サークルの中心スタッフと企画会議を実施

2月11日、12日

学生サークルの中心スタッフと地域スタッフによる実践塾 3 を実施

2月13日

学生サークルの参加者が5つのグループにわかれ、以下の地域交流を実施

- 1、振内保育所、振内小学校、振内中学校の児童・生徒を対象として子どもよさこい踊り交流
- 2、平取義経なるこ会（平取町のYOSAKOIチーム）とのYOSAKOI交流
- 3、地域にある授産施設を訪問して入所者との交流

## 活動様式 3

4、地域にある特別養護老人ホームを訪問して入所者との交流

5、地域のスポーツサークルとの交流

2月14日

地域内に作った会場にて地域交流を開催した。



地域の建設会社の協力を受け、雪を使って会場を作った。後に都市部若者たちによりここに大規模なすべり台、かまくらが造られ、地域の子供達と交流したことから、活動がより地域に浸透した。



様々な団体、機関と連携を図った。写真は一つである振内小学校のグラウンドに地域の有志らが設営しているスケートリンク。



地域の会場には300人の若者と100人以上の地域住民が集まり、当初想定していない規模の地域交流が行われた。参加した若者達からは前日のグループ毎の地域交流が発表された。



都市部の若者らが会場に設営した滑り台やかまくらは、地域の子どもたちが、雪遊びに使った。

直接的な地域交流の企画・実施だけではなく、地域住民が都市部との交流をどのように考えているのかなどの田舎の事情を理解してもらうことに重点を置いた。また、地域に対しては過疎の町でも何らかのきっかけや活動によってこのような大きな行事を開催し、都市部の若者たちとの交流を図ることが出来るということを感じてもらおう非常に良い機会になったと思われる。終了後も地域では「来年も来てもらいたい」「また何かやるの?」といった声が数多く聞かれた。

## 活動様式 3

### 1-4、実践塾4『潜在的な地域資源の発掘と事業化』

実施日：3月12日から13日

参加者：10人（地域8人、地域外2人）

内 容：国立スポーツ科学センタースポーツのアスレチックトレーナーである松田直樹氏を講師に招き、スポーツの町づくりの可能性について討議した。

松田氏はU-17日本代表アスレチックトレーナー、アイスホッケー女子日本代表トレーナー、日本オリンピック委員会医学サポート部員、アテネオリンピック日本選手団本部トレーナーなどの経歴を持つ方で、

スポーツ選手、団体との関係が深いことから、スポーツ選手のセカンドキャリアやスポーツ合宿、スポーツイベントに当町の環境や潜在的な資源を活かし事業化することができないかという討議をした。

既存の設備を活用する（大きな設備投資を行わない）場合、地域内の施設ではできることが限られている。

例として検討されたのはフットサル。

松田先生の話によると、フットサルは選手人口が増加しているスポーツのひとつであり、Jリーグなどを引退した選手達のセカンドキャリアとしての可能性は高いという。また、当町でも成人のチームがあることから、具体的な検討を進めていくということになった。

スポーツ合宿については施設も重要な要素であるが、それ以上に練習相手（試合の相手）を重要視されるということがわかった。そのため、実現に向けては、北海道内の対戦相手についての動向を調査する事とした。



閉校となっている豊糠小中学校を松田氏とスポーツに関係の深い地域住民とで視察。写真左は振内小学校教頭（もともと中学校の体育の教師であり、スポーツ指導を専門とする）。中央は松田氏。写真右は地域のアイスホッケーチームの代表。



実践塾の実施に際しては多様な主体との連携を実施しており、上の写真は都市部からの若者の送り出し、平取町の環境を活用したスポーツ合宿、スポーツ体験活動などの可能性について北海道宝島旅行社（左から2番目）、NGOezorock（右から2番目）、NPOねおす（最右）と事前に検討したときの様子。

## 活動様式 3

地域にはスポーツ活動に熱心な人が多いことから、実践塾4ではスポーツをキーワードとした地域活性の可能性を見出すことを目的とすると同時に、実践塾としては初めて『ビジネス』『収益事業』という側面から地域活性を検討することとした。

このことにより、地域からの参加者にはやりたいこと、できること、やらなければならないこと、といった具体的な地域活性が見えてきたものと思われる。

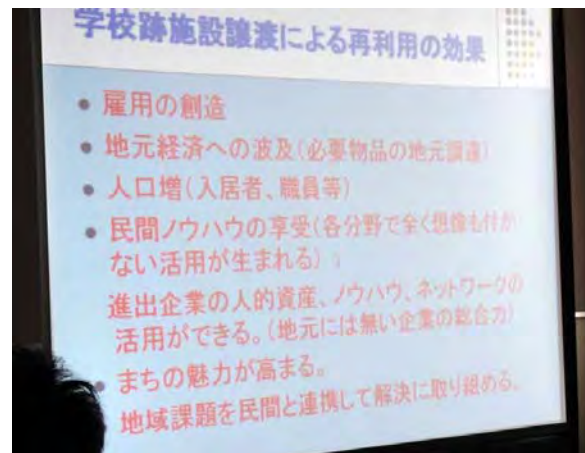
### 1-5、実践塾5『次年度以降の事業継続と収益検討』

実施日：3月20日から21日

参加者：20人（地域16人、地域外4人）

内 容：これまで実践塾1から4まで地域活性の可能性や地域資源について検討してきた結果をもとに『いかにして継続出来る事業とするか』について地元のスタッフおよびスタッフ予備軍を中心に討議した。

また、同日程で平取町主催の閉校舎の活用を考える検討会が開かれていたことから、参加者はその検討会とも合流し、講師としてこられていた新冠町の総務企画課まちづくりグループの堤氏を交えて閉校舎の活用と事業化についての討議を行った。



新冠町役場総務企画課まちづくりグループの堤氏は閉校となった校舎をYahooオークションに出した仕掛け人。

地域の想いと事業（収益）という相反する目的をひとつに重ね合わせてきた堤氏の話はこれからの地域での事業を考えていく上で非常に参考になるものであった。

新冠町でも当然に当初は猛反対を受けたが、信念と目的を持って対応してきた結果、地域は活性化しつつある。その様を見て最初は反対していた住民らも今では応援団となっている。

## 活動様式 3



平取町豊糠地区で一昨年閉校となった学校に隣接されている教員住宅を視察。家具なども一部残されており、すぐにでも体験宿泊などの活用が可能であることから、次年度具体的な事業化へ向けて平取町と連携を取りながら検討していくこととした。

実践塾5では、事業として地域活性をしていく事について活発な議論がされた。

これまで地域では地域活性や町づくりはボランティアでやるものか役場がやってくれるものという思いが強かった。

しかし、町財政が逼迫している中では全てを役場に委ねることは不可能であり、もしも役場にそれだけの余力があったとしても地域が自発的に取り組んでいかなければ活動や事業は継続できないことを共通の認識として持つことができた。これこそが新たな公の役割であると考えられる。しかし、それには必要なものがあることも同時にわかった。それは人と金である。お金があっても有効に使うことの出来る人がいなければ無駄金ということになる。人があったとしても生活と仕事に必要な金がなければ活動は長続きするものではない。

これらのことから、どうやって資金を確保し、どうやって人材を発掘し育てていくかということが最終的な論点となった。

## 2、新たなコミュニティ創造事業2の実施（コミュニティ・サイト制作）

地域の活動を躍動感をもって都市に発信し、地域に感心を持つファンをつくることを目的としてコミュニティ・サイト（ホームページを作成した）

ホームページの内容として以下のコンテンツを計画した。

- 1、地域のニュース（お知らせ、求人・求職情報、空き家バンク、イベント告知、ブログなど）
- 2、地域の課題（地域の課題を公開し、閲覧者より解決の提案を募集する）
- 3、地域のアイデア（地域の環境や資源を使ったこんなこと出来ないか？これは使えないか？という地域からのアイデアに対し閲覧者に意見を求める）
- 4、都市からの質問・提案（都市から田舎でこんな事出来ないか？こんな物（人）はないか？という提案や質問に対し、地域から答える）
- 5、事業企画（上記の課題、提案から実行可能な案件について、サイト上で企画公表し、閲覧者に資金・物資の調達や事業への協力・支援・参加を求める。実施経過・報告についてもサイト上で行う）

### 活動様式 3

新たなコミュニティ創造事業2を実施するに際して、地域内部で更新や修正ができるサイト作成に留意した。

都市部の情報は新聞やテレビ、雑誌などを通じて地方部にも届いてくるが、地方部の情報が都市部に届いていることは多くない。

これは地方部の情報発信力がないことによるもので、そのことが都市と田舎の交流を妨げている（促進できない）要因となっていることは実践塾を通じて交流してきた多くの都市部の方々から指摘されたことである。

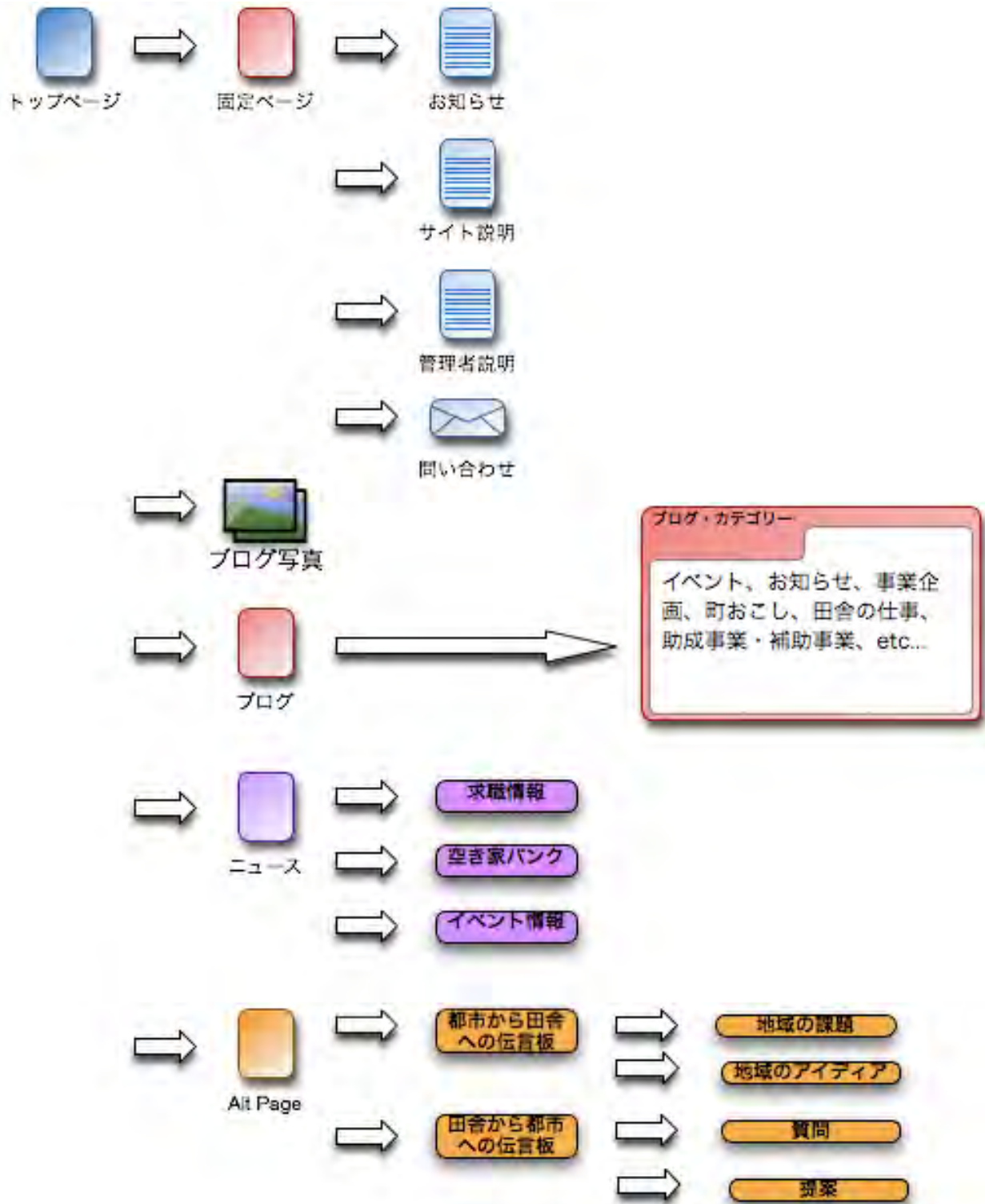
そして、その情報発信の方法として最も有効であると言われたのはインターネット（ホームページである）

しかし、地方部にはホームページの作成に長けている人や業者が存在することは稀で、多くは都市部の業者に制作委託しており、その修正や更新がはかどっていないという現状がある。

そして、ホームページの活性化はサイトの出来よりも更新度合いによるところが多いと言われている。

これらのことから本事業ではサイト作成を都市部業者に委託するのではなく、地域の住民がサイトの作り方や更新の仕方を学び、自分たち自身の手によって作成・更新していくという手法をとった。

活動様式 3



サイトマップ



田舎のチカラ組!は、北海道平取町から発信している『田舎と都市を結ぶサイト・コミュニティ』  
 ここから田舎と都市の新たなネットワークが生まれます!  
 いや、生まれたら良いなと思ってます。😊

ログイン お問い合わせ サイトマップ

過疎の流れを逆流するへ



閉校舎活用フォーラムin平取 (3/16)  
 3日間 命の輝き (3/15)

HOME お知らせ 田舎のブログ 田舎のチカラ組!って? 私は誰?

Search...

最近の記事から...

- ▶ お役所仕事
- ▶ 援農・販売.jp
- ▶ 小規模市町村への交付税増額
- ▶ 観光創造士
- ▶ 限界集落移住に200万円支給

イベント/フォーラム

- ▶ ふぞろいの北の野菜と果物を応援する会
- ▶ 東北こんそオープン研究会
- ▶ 閉校舎活用フォーラムin平取
- ▶ 地域活性化フォーラム(札幌)
- ▶ 中心市街地活性化セミナー



**田舎から街へ**

「こんな田舎資源は使えないだろうか?」とか「こんな田舎企画はどうだろうか?」という田舎の売り込みや、都市との連携で田舎の課題を解決しているような話や、生まれたら良いなと思ってます。😊

最近の発言

- ▶ [買い物バスツアー](#) (2/26)
- ▶ [ツリークライミング](#) (2/24)
- ▶ [24時間サッカー](#) (2/24)

[田舎から街への伝言板を開く...](#)

**街から田舎へ**

「田舎にこんな環境や人・技はないですか?」とか「田舎とのコネクションはどうやって作れば良いだろうか?」のような都市から田舎への問いかけはコチラ。

[街から田舎への伝言板を開く...](#)

**ぽっぽっ 管理入のひとりごと**

管理人である私が、田舎ですっただししながら生きている中の雑感を、そこはかとなく書き綴っております。たいして面白い話ではありませんが、田舎の人達ってこーなんだ的な発見はあるかもしれません。お時間のある方はぜひ読んでみてください。

トップページのイメージ



ログイン お問い合わせ 掲示板管理

過疎の流れを逆流するへ

田舎のチカラ組!は、北海道平取町から発信している『田舎と都市を結ぶサイト・コミュニティ』  
 ここから田舎と都市の新たなネットワークが生まれます! いや、生まれたら良いなと思ってます。😊

田舎の掲示板TOP お知らせ 田舎のブログ 田舎のチカラ組!って?

田舎の掲示板 > 田舎 → 都市への掲示板

» 田舎 → 都市への掲示板

メインテーマ	話題	投稿
<a href="#">こんな田舎資源は使えないだろうか?</a>		
自然・環境	0	0
物	0	0
人・技	0	0
<a href="#">こんな田舎企画はどうだろうか?</a>	3	4
<a href="#">田舎ではこんなことに困ってます</a>	0	0

田舎の掲示板 is proudly powered by bbPress.

田舎と都市との交流掲示板

## 活動様式 3

- ▶ 小規模市町村への交付税増額
- ▶ 観光創造士
- ▶ 限界集落移住に200万円支給

### イベント/フォーラム

- ▶ ふぞろいの北の野菜と果物を応援する会
- ▶ 東北こんそオープン研究会
- ▶ 閉校舎利活用フォーラムin平取
- ▶ 地域活性化フォーラム（札幌）
- ▶ 中心市街地活性化セミナー

### 最近の掲示板から

- ▶ 買い物バスツアー
- ▶ ツリークライミング
- ▶ 24時間サッカー



### 援農・援売.jp

またまた、こんなサイトが立ち上がっていました。

[援農・援売.jp \(続きを読む...\)](#)

### ふぞろいの北の野菜と果物を応援する会

4月16日、札幌エルプラザでふぞろいの北の野菜と果物を応援する会（ポロの会）賛助会員説明会が開かれます。 [\(続きを読む...\)](#)

### 東北こんそオープン研究会

[東北こんそ](#)では、住民や行政、企業、研究者など様々な立場から日ごろ取り組んでいる地域づくり活動について、意見や情報を交換し、新たな視点や気づきをお互いが探し出すことを目的に、オープン研究会を開催します。 [\(続きを読む...\)](#)

### 小規模市町村への交付税増額

総務省は2010年度の地方交付税配分で、人口10万人未満や人口が急減した市町村への配分額を増やすらしい。 [\(続きを読む...\)](#)

### 観光創造士

北大観光学高等研究センターが地域観光の主導的役割を果たす『観光創造士』の認定制度を開始するらしい。 [\(続きを読む...\)](#)

### 閉校舎利活用フォーラムin平取

今週末、平取町では閉校舎の利活用についてのミニ・フォーラムを実施します。

ご都合のつく方は、是非、ご参加ください。

[\(続きを読む...\)](#)

### 地域活性化フォーラム（札幌）

行きたーい。けど、行けなーい。

ブログのイメージ

## 3、新たなコミュニティ創造事業3の実施（田舎塾）

実施日：3月22日

参加者：10人（地域5人、地域外5人）

内容：都市部の子どもとその親を対象として、地域で自然体験を実施した。

当初は地域の山林で春探しを行う予定であったが、例年にない雪と前日までにふった雪と雨のため地域での開催を取りやめ、急遽隣の日高町まで移動して、スノーシュー体験を実施した。

移動のため短い時間となってしまったが、参加した子供達には大変好評であった。

### 活動様式 3



子供達は都市の子供であろうと田舎の子供であろうとすぐに仲良くなってしまう。大人はなかなかそうはいかず、子どもに教えられることも多い。



田舎に住んでいるからといってこのような体験を日常的にしているわけではない。

すぐそこにこのような環境があるにも関わらず子どもたちは（実はその親達は）その価値を忘れていたのである。



左の写真は雪上に残ったリスの足跡。

リスに限らず雪上に動物の足跡が残されていることは地域では珍しいことではなく、地域の子供達も注意してみるなどはないが、都市部の子供達にとってはとても珍しい光景に映る。

この様に地域には地域の人が気がつかない宝物が沢山あるのである。

このような自然体験は都市部を対象に行うことも大切だが同時に地域の人が都市部の人たちの価値観を学ぶ上でも非常に大切なものとなり得ることがわかった。

田舎塾では、これまでの実践塾に参加してきた都市部の若者をスタッフとして起用する予定であったが、計画通りに都市部若者スタッフの育成ができなかったことから、地域スタッフによって実施した。

また、前日までの荒天の為、直前にキャンセルが続き、地域外からの参加はわずか5名となってしまった。

## 活動様式 3

### II 目標の達成状況

目標 1 : 地域スタッフ (20代から30代) の確保 - 20人

→ 達成状況 : 23名、目標達成率115% (ただし一部40代が含まれる)

目標 2 : 地域外からの参加者 - 100人

→ 達成状況 : 約39人、目標達成率39%

目標 3 : 都市部の子どもたちを対象とした体験活動の実施 - 1回

→ 達成状況 : 1回、目標達成率100%

目標 4 : 継続実施できる仕組みを作り。よそ者、若者による課題解決集団の存在に対する地域の認識

→ 達成状況 : 実践塾を町内外に積極的にPRすることにより、町内外の注目や多くの参加者を集めることができ、結果ととして地域に対する団体の活動の認知が進み、それによって団体への協力が増える好循環となった。また、実践塾に参加した学生との連携により学生300人が参加する交流会が

開催されるなど、都市部の学生との交流が地域に一定の手応えを与えている。

## 活動様式 3

### Ⅲ 地域における協働

『連続する町づくり実践塾』にて大学、短大などの授業の一部（単位）とすることについて、計画時、札幌市内のいくつかの大学と検討していた。

本事業を通じて、それらの大学と具体的な実施までには至らなかったが、さらにいくつかの大学で同様の話を進めることができている。

北海道大学、北海道大学公共政策大学院、帯広畜産大学、酪農大学

本事業は継続しNPO法人ほかの活動として具体化に向けて進めることとしている。

『北海道ふるさとづくりセンター事業』との連携は本事業を通じて会議を開き、また、メールなどを通じてアドバイスを戴いている。今年度も同事業を通じて、8月の地域と若者の交流会を実施してもらうことがほぼ決まっている。さらに7月に実施される幌尻まつり実行委員会からも要請を受けており、実現に向けて次年度より協議していくこととしている。

それ以外に当初の計画にはなかったが平取町内の以下の4つの団体との連携が始まっている。

- 1、平取ダム水源地域振興協議会
- 2、平取町役場アイヌ文化振興対策室
- 3、平取町ふるさと親子留学推進協議会
- 4、山の駅施設管理委員会

#### 1、平取ダム水源地域振興協議会との連携

建設予定の平取ダムの水源地域となる豊糠集落の振興と活性化を図るため平成20年10月に平取町が設立し、豊糠小中学校の閉校舎の活用、豊糠集落の地域ブランドづくり、文化的景観、幌尻岳などを利用した観光客の呼び込みを行うもので、若者ミーティング、インタープリター養成講座などの事業を新たな公との連携において実施している。

#### 2、平取町役場アイヌ文化振興対策室との連携

平取町二風谷地区を中心としたアイヌ文化の振興を行うために平取町役場内にアイヌ文化振興対策室が設置されているもので、客観的な立場とよそ者の視野を持つ者として新たな公で育成してきたスタッフが2名委員として参加することとなった。

#### 3、平取町ふるさと親子留学推進協議会との連携

山村留学の制度を実施する団体で、もともと当団体との関連があるが、次年度以降はふるさと親子留学でも課題となっている地域の仕事の創出について、さらに連携を深めていくこととなっている。

#### 4、山の駅施設管理委員会との連携

バスの停留所、トイレ、幌尻岳登山の案内所（7月から9月）、地元物産品の販売などを行う施設を管理する団体であり、当団体との連携により、さらに積極的な施設の活用を進めていくこととなり、当団体スタッフが4名、委員として参加することになった。

## 活動様式 3

### IV 活動の結果、効果

#### (1) 課題の解決、コミュニティの創生

本事業は当初、次の課題の解決を目指して実施した。

1、過疎化が進行していることに対しての危機感が高くない。過疎の町だから仕方が無いという諦めが蔓延している。また新しい問題解決の方法を簡単に受け入れることができないという『地域住民の意識に関する課題』

2、生活することに精一杯で地域活動に取り組む余裕が無い住民が大半。空白の世代（その世代が地域にいない）がある。高齢者が健在であり、次の世代に町づくりを引き継いでいないという『地域環境（特性）に関する課題』

3、地域外との連携から地域の問題を解決した経験を持たない。地域外からの視点で地域の資源・価値を再認識したことがないという『地域外部の視点・連携に関する課題』

本事業を通じて全ての課題について以下の理由により十分な効果が得られたものと考えられる。

先述したように平取町振内地区は急速に栄え、急速に衰退している地域であることから、諦めが蔓延しつつあったが、本事業により、わずか4ヶ月の間に地域人口の半数以上にも及ぶ都市部の若者たちが地域を訪れ、口々に「良い町ですね」「また来たいです」と言って帰ったことから、住民たちは地域の可能性を僅かながらにでも感じ始めている。また、役場ではない法人が中心となり、自らの手によって地域活性化ができるのだという現実を目の当たりにしたことで、地域の若い層の中に『自分たちで地域を活性化しよう』という気運が高まりつつある。

さらには、これまで頑なに地域自治の中心を担い続けてきた高齢者の方々が『若い者たちの発想で地域を作ってもらいたい』と考えるようになってきている。

具体的には、3月に農業者らが中心となって、振内地区で組織的に新規就農者を誘致することを検討する会が立ち上がった。

これは、田舎づくり実践塾1のワークショップで発案され、田舎づくり実践塾2において議論された事から継続し、発展したものである。

本モデル事業により300人を超える都市部の若者が地域を訪れ、多くの住民が彼らと交流をしたり、ワークショップなどで地域づくりを共に考えてきた。

このことによって地域の人達が、都市部の視点を少なからず感じ取ったものと考えられる。

#### (2) 活動の持続可能性

本事業に終了後の活動の継続見込みについて、人的な面においてその目処は立ったものと判断される。

資金的な面においては、確たる目処が立っていないのが現状である。しかしながら、その資金を行政に求めてしまえば、単なる外部委託事業となり、本来の新たな公の役割を果たせないものと思える。それらのことから本事業は、その活動資金を全く違った方向に見出す必要があり、当団体が別に実施する集落支援員制度の延長線上にある集落支援センターがその役割を担うものと考えられる。集落支援センターは総務省の集落支援

(3) 周辺への波及効果

日高町千栄地区で実施されている日高地域活性化協議会から、実践塾1で招聘した結城先生を紹介してもらいたいという連絡があった。また、次年度以降、同協議会と広域連携（沙流川流域連携）を検討していくこととなっている。

新冠町より移住者が町おこし活動をしている事例として講演の依頼を受けている（時期未定）また、同町とは同じ日高支庁であることから、日高支庁内でも最も小さな集落のひとつである豊糠地区の活性化を協働で行い、その効果を支庁全体に広げていくための連携を検討することになっている。

#### IV まとめ

我々は本事業を通じて、地域住民の意識改革、啓蒙活動に重点をおいて活動してきました。それは地域住民に「自分たちで出来る」「自分たちでやらなければならない」という意識を持ってもらいたかったからです。そして、その意識がなければ全ての地域活性、町おこしははじまらないと考えていました。その点から見ると、本事業は十分な効果を果たせたと考えることができます。

事業の開始直後はなかなか活動に参加してこなかった人たちも、メール一本で集まってくるスタッフとなり、都市部から訪れた若者たちと直接的に連絡を取り合う者も出てきています。

スタッフとまではならなかった住民からも「今度は何をやるの?」「あの若者たちはまた来るの?」と声をかけられることも少なくありません。

そして、本事業を通じて協力し続けてくれた平取町町づくり振興課との強い連携も生まれ、そのことから平取町内の様々な地域おこしに我々スタッフに声がかかるようになりました。最後に、本モデル事業を実施してきて、全ての成果とも言える言葉を先日、育成してきたスタッフからもらいました。

「ほかげのおかげで意識が変わりました。これからも様々な活動に参加します。いや、参加させてください。楽しい町を作りましょう」

我々の実施してきた活動が間違っていなかったと強く感じることができました。